



News Letter

No. 87

The Iida City Institute
of Historical Research

2017年4月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

歴史研究所第4期中期計画がスタートします

歴史研究所は設立以来の目標に向け、今後も人びとの日々の営みを基礎とした歴史文化遺産(地域遺産)を収集・保存するとともに恒久的・継続的に調査研究し、その成果を多様な形で地域のみなさんに提供・還元していくため、平成29年度から平成32年度に至る中期計画を以下のとおり策定しました。(詳しくはホームページ [<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/20170401-5.html>] をご覧ください。)



第14回飯田市地域史研究集会

I 基本方針

- 1.「地域遺産」を調査・研究し、記録し、その保存と公開を図り、成果を多様な形で市民に還元し共有します。
- 2.戦争や災害・くらしの記憶や日々過去となりつつある現在を、記録し続けることを目指します。
- 3.調査・研究は飯田市を中心に、広く下伊那の全域をも対象とし、関連する諸地域も含めて包括的に活動を進めます。
- 4.地域史研究の拠点として、また、地域遺産保全の取組でも拠点となることを目指します。
- 5.歴史研究所の取組の諸成果を地域市民や国内外に広く発信し、交流を図ります。

II 重点目標

1.地域アーカイブズ事業の拠点化

地域アーカイブズ(地域史料)の調査や保存に取り組み、美術博物館や図書館等と連携した体制づくりを進めながら、得られた史料や情報の保存、公開、活用に向けて体系的なシステムの構築と、文書保存や閲覧利用の充実を図ります。

2.地域遺産の再発見

地域遺産を地域の宝物として大切に守り、これに学び、活用を進め、地域への愛着、地域の魅力づくりに結び付けていきます。

3.地域市民との連携強化

各地域の現状や要望を考慮して、地域市民自らによる史料調査や地域の学習・研究活動を支え協働します。

4.地域史研究・地域遺産保全を通した交流の促進

III 基本的事業活動

1 研究・調査

歴史研究所の諸事業の基盤であり、非常勤の諸研究員とも連携し研究・調査事業に取り組みます。

[1] 史料調査

史料調査活動を多様に進めます(個人の家や区、学校など地域に残された文献史料、オーラル史料、建造物・景観、映像・音声、行政文書等)

[2] 研究

- ・基礎研究、基礎共同研究
- ・地域史研究集会、定例研究会、ワークショップ、史料研究ノート、年報の編集・刊行

3 研究者養成と地域連携

飯田・下伊那の地域史研究のさらなる活性化を目指し、市民研究員制度を柱とした研究者養成や、地域史研究団体との協働にこれまで以上に取り組みます。

2 教育・普及活動

[1] 飯田アカデミア

広い視野を重視し、第一線の研究者による最新の成果を提供します。

[2] 地域史講座

『飯田・上飯田の歴史』をテキストとする講座や、それぞれの単位地域を対象とした講座を継続します。

[3] 出前講座

[4] ゼミナール、ワークショップ

[5] 古文書講座

[6] 公開史料調査・協働史料調査

4 市誌編さん・出版事業

地域史料集(『飯田・下伊那史料叢書』)、単位地域の全体史、テーマごとの地域史の3種類を柱として市誌編さん・出版事業に取り組み、刊行支援も行います。

[1] 飯田・下伊那史料叢書

[2] 単位地域の全体史(『飯田・下伊那の歴史と景観』の刊行)

[3] 地域史叙述

[4] 刊行支援

IV 歴史研究所の体制整備

1.組織・運営

組織体制について現状の点検と評価を行いながら、特に研究員を安定的に確保・維持する方法を、任期制の再検討を含めて検討します。国や民間などによる研究助成獲得への継続的な取組や情報公開に努めます。

2.連携

関係機関、団体等との関係構築、連携に努めます。

歴史研究所の利用制限について(お知らせ)

飯田市歴史研究所は今年9月に旧鼎東保育園の建物へ暫定的に移転をすることになります。

この移転に向けて、4月より収蔵史料(原文書など)の整理作業を開始しますので、作業の進歩状況によって史料の利用を制限させていただくことになります。

まず5月以降は原則として史料(書籍以外)の利用を休止させていただきます。移転前にはその他の書籍などの利用も制限する期間を設ける予定です。今後の利用制限の内容と期間の詳細は、広報いいだや飯田市ウェブサイト [<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/>] でご案内します。

歴史研究所の史料を利用希望される方は、事前にお問い合わせくださいますようお願いします。

ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

飯田市歴史研究所 平成29年度の事業概要

1. 調査研究事業

歴史資料(史料)の現状記録調査、歴史的建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)などを実施し、地域の歴史・文化を解明していきます。市民や研究者、大学等の研究機関と協力しながら、その成果を研究集会・年報等で公表していきます。

① 研究成果の公表(刊行物)

『歴史研究所 年報』15号・書き書き『飯田町のぐらし』⑦

② 第15回 飯田市地域史研究集会

「地域の歴史を描く」7月30日(日)開催

③ 歴史研究活動助成

飯田・下伊那を対象にした研究活動を助成することで人材の育成に努め、研究成果の蓄積を図り、その成果を地域に還元していきます。

④ 定例研究会

⑤ 歴史資料調査及び受入史料の整理、目録公開

⑥ 地域の文化遺産記録作成・調査研究事業、地域資源活用助成事業

歴史資料の調査研究と保存・利活用によって、歴史的地域資源に対する住民意識を高めながら、まちづくりや世代交流の素材としても再認識できる環境を整えていきます。

2. 学習協働事業

市民のみなさんが暮らしている地域を知り、地域を誇りに思う心を培い、人材を育む地域の力を高めていきます。併せて調査研究や教育を行う人材の育成を目指します。史料調査や古文書解読、研究などを地域の研究団体と協働して行います。

① 地域史講座の開催

飯田・下伊那の歴史を題材とした最新の地域史研究の成果について発表します。



飯田アカデミア第79講座
「戦中体験から戦後体験へー「焼跡から
のデモクラシー」の形成をめぐってー」

② 飯田アカデミアの開催

歴史学を中心とした外部の講師による大学専門課程レベルの学術講座を開催します。

平成28年度研究活動助成報告会が開催されました

2月25日に飯田市役所にて3件の助成対象研究報告が行われました。その1つを紹介します。

「初等教育修了後の進路をめぐる学校と地域社会の関係史 —戦時期長野県下伊那地方を事例とした職業指導の実態—」鈴木 智子

飯田市郊外の鼎村、上郷村を対象地域に選び、戦時期の初等教育修了後の子どもたちの進路における学校の役割と営み、地域家庭との関わりを明らかにしようとした研究。戦時期には、「職業」の科目化や健康増進を通して職業指導の具体化がはかられ、「保護」の視点も重視されたが、戦局の悪化により家庭の状況は厳しいものがあった、下伊那地方では国策に沿った教育をしつつも子どもたちの現実と向き合った指導が戦時期にもなされていた、と結論付けられている。具体的な学校史料を用いての実証的な研究である。

③ 飯田歴研ゼミナールの開催

近世史ゼミ、近現代史ゼミ、満州移民研究ゼミ、地域史(川路)ゼミ、自分史ワークショップ、思想史ワークショップを開催します。

④ 学校教育や民間の研究グループ等との連携

「職場体験学習」の受け入れや、学校・地域の団体・サークルを対象にした「出前講座」へ出講します。



中学生職場体験学習「ふすまはがし」

3. 市誌編さん事業

歴史研究所の調査研究活動の成果を集約公開し、この地域の歴史と文化を身近に感じられる取り組みを行ないます。

市民や来訪者に向けたガイドブック『飯田・下伊那の歴史と景観』を出版します。

4. アーカイブズ(歴史資料)保存活用事業

① 旧役場文書や学校など公的機関の歴史資料の保存・公開・活用

② 市役所の非現用文書の保存

③ 歴史資料の保存(デジタル化を含む)・継承の支援および公開

5. 地域に開かれた研究所をめざして

市民のみなさんからのご意見をふまえながら、計画的な調査研究活動を展開していきます。

歴史研究所協議会を開催して、市民のみなさんと連携した事業の推進を図ります。

調査研究によって整理蓄積された収蔵史料や目録などの情報は積極的に公開を進め、市民のみなさんや研究者等の閲覧や利用に関するサービスを提供します。

さらに、ホームページの充実や広報などを通じ歴史研究所の諸活動を広く市民のみなさんに紹介していきます。



「肝脣地に塗る」 ～「十三町組頭日記」の多様な世界～

竹ノ内 雅人(歴史研究所調査研究員)

現在中央図書館に所蔵されている「十三町組頭日記」は、江戸時代後期の飯田町に関する行政運営だけでなく、飯田藩の政治、伊那谷を中心とした流通経済など、豊富な内容を提供してくれる貴重な史料です。さらに、当時の人々による具体的な発言や事件の裏事情にいたるまで克明に記録されている点も、ほかの城下町の文書に比べて類を見ない特徴になっています。今年1月の地域史講座でも紹介しましたが、交渉の場で相手の本質を見抜いたら「ついに化けの皮がはがれたな」と思わず声をあげ、江戸の奉行所から出頭命令が来ても「代わりの人間を出せばいいんじゃないか」と嫌がり、交渉に立ち会ってくれという頼みには「今日こそは去年失敗した味噌かきをしくじりたくないから出たくない」と言って断ろうとする、そんな人間味あふれる当時の生の声が、日記のいたる所にあらわれています。

かと思えばこんな記述もありました。文政6(1823)年12月、いわゆる床屋火事で橋南の市街地がほぼ全焼します。年が明けて早々、人々は町の再建に取りかかりますが、大工仲間との間で賃銀の額をめぐる争いがおこりました。このとき町人側から飯田町奉行所へ出された訴状の一部がこちらです。

あ殿様(堀親喜(ほりちかしげ))のご仁政は、町の隅々に至るまでありがたいと存じてあります。更に今度の火災では(罹災者救済の)憐れみ深いご命令をいくつも出され、そのありがたさは筆紙に尽くしがたく、「肝(かん)脣(のう)地(ち)に塗(ま)みる」ともご高恩へは時を移さず報いたいと存じます…

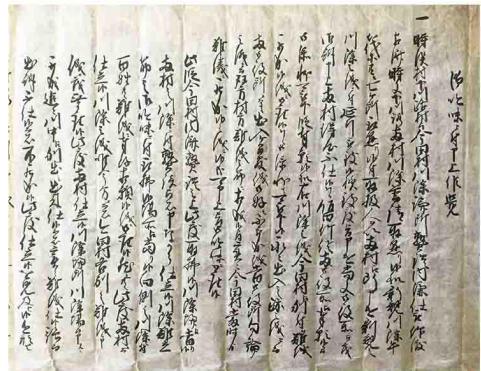
この「肝脣地に塗る」という故事成語は、中国の史書『漢書』劉敬伝や蘇武伝に現れ、むごたらしい死に方をすること、さらに進んで命を捧げることを意味します。藩主の「仁政」に対するありがたさを願書に記載することは当時一般的なものです、その表現に故事成語を使った教養深いものはあまり見たことがありません。私もここで初めて知った言葉です。多様な面白さを合わせ持つ「組頭日記」の特徴を、今後も折を見てご紹介したいと思います。

川路に残る江戸時代の古文書を用いたゼミを始めます

歴研ニュース第85号でも紹介しましたように、歴史研究所では、文化庁「文化遺産を活かした地域活性化事業」の一環として、昨年9月から、川路自治振興センターに残された旧川路村役場文書(明治~昭和)などの整理作業を進めてきましたが、2月に無事終了しました。総点数は約12,100点。公民館(約600点)、婦人会(約50点)、自治協議会(約90点)に関する文書も含まれています。内容も、戸籍、土地、教育、農業、村委会、戦争など豊富で、かつての川路の姿を示す貴重な歴史資料です。今後もしっかりと保存され、研究や諸活動に活用されることを願っています。



元禄6(1693)年「下川路村本田検地帳」



宝暦5(1755)年「御吟味二付申上候覚」
本文の争論に関する史料

ところで、同じ場所には近世(江戸時代)の下川路村文書も2,500点以上残されています。たとえば、18世紀半ばにおこった、天竜川の堰などをめぐる下川路村、時俣(又)村と今田村との争いに関する文書など、興味深いものがたくさんあります。30年以上前の『川路村誌』編さんの際に整理が行われていますが、再整理を行い、保存処置を施す必要があります。そこで、市民のみなさんと一緒に整理作業を進めながら、古文書を読んでいく地域史(川路)ゼミを企画しました。5月10日から月2回(第2・4水曜日18:30~21:00、会場は川路公民館2階視聴覚室)を予定しています。古文書の整理方法と解読を基礎から学び、川路の歴史をみんなで考える場にしたいと思います。

4月1日から参加者を募集します(定員15人)。歴史研究所までお問い合わせください。

(研究員 羽田 真也)

飯田アカデミア2017 第80講座

5月20日土 山里の暮らしを描く

第1講 13:00~15:00 「タイマグラばあちゃん」上映会
第2講 15:15~16:30 講演・意見交換会

〈作品紹介〉

岩手県早池峰山(はやちねさん)の麓にある「タイマグラ」を舞台に、そこに住む「タイマグラばあちゃん」と向田マサヨさん夫婦の暮らしと、開拓農家が残した空き家に新たに住み始めた若者と彼の家族が引き継いでいく手作りの「味噌づくり」を中心に、厳しくも美しい自然環境の中で育まれる、世代を超えた交流を人々に寄りそって描いた作品です。

講 師 澄川 嘉彦さん (映像作家)

会 場 竜丘公民館 大ホール (飯田市桐林505)

受講料 500円 (資料代)

※1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

2004年 澄川嘉彦 監督作品

「タイマグラばあちゃん」

カラー 16 mm / 110分



早池峰山の麓「タイマグラ」に生きたばあちゃんとじいちゃんの日々
15年間のいのちの記録

飯田歴研賞2017候補作品募集

歴史研究所では、飯田・下伊那の地域史研究における優れた作品を発掘するため、「飯田歴研賞2017」の候補作品を募集します。

皆さんの推薦により候補となる作品を選出し、審査後に受賞作品が決まります。自薦他薦は問いません。ぜひ作品を歴史研究所までお送りください。

対象作品

2016年4月～2017年3月に刊行・発表された著書・論文(自費出版を含む)

応募方法

推薦作品を歴史研究所まで持参するか、郵送してください。

応募締切り

平成29年5月31日(水)

審査・表彰

歴史研究所で審査を行い、平成29年度研究集会で優秀作品を表彰します。

第15回飯田市地域史研究集会

2017年 7月30日

「地域の歴史を描く」

さまざまな人びとや団体によって、多様な視角から地域の歴史が描かれています。それぞれの現状や課題を報告しあい、地域史の可能性を探りたいと思います。

会 場 飯田市役所 C棟3階会議室

(飯田市大久保町2534)

報 告

多和田 雅保(横浜国立大学教授)

安岡 健一(大阪大学大学院准教授)

樋口貴彦(歴史研究所研究員)ほか

歴研ゼミ&ワークショップ 4月・5月の予定

受講生募集

スタッフとともに

歴史を学んでみませんか。

場所:4月 歴史研究所研修室・5月 上郷公民館201会議室

近代史ゼミ 担当:千葉拓真(研究員)

4月4日・18日／5月2日・16日(第1・第3火曜日) 19:00～20:40

近現代史ゼミ 担当:田中雅孝(調査研究員)

4月8日・22日／5月13日・27日(第2・第4土曜日) 10:00～11:40

満洲移民研究ゼミ 担当:本島和人(調査研究員)

第69回 4月1日／第70回 5月6日(第1土曜日) 10:00～11:40

New 地域史(川路)ゼミ 担当:羽田真也(研究員)

5月10日・24日(第2・第4水曜日) 18:30～21:00

※地域史(川路)ゼミは、毎回川路公民館2階視聴覚室で行います。

思想史ワークショップ 市民の皆さんのが自主的に学び合う場

4月5日・19日／5月17日(第1・第3水曜日) 19:00～20:40

New 自分史ワークショップ 市民の皆さんのが自主的に学び合う場

4月22日／5月27日(第4土曜日) 14:00～15:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間:午前9時～午後5時

休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日